

市川よみうりONLINE

[HOME](#) [NEWS2012](#) [アンケート](#) [ブレイクタイム](#) [広告](#) [LINK](#) [NEWS2011](#)



子供たちの期待を乗せたロケットが水しぶきを上げて威勢よく飛び立つ

2012年5月26日 土曜日

水ロケットに子供たち大歓声

日本宇宙少年団市川COSMOS分団

市川市大洲地先の江戸川河川敷で20日、日本宇宙少年団市川COSMOS分団の子供たち約40人が、ペットボトルで一人一つずつ作った水ロケットを大空めがけて打ち上げた。

同分団は、日本宇宙少年団の県内3つ目の分団として昨年10月に発足。子供たちの「科学する心」や「好奇心」「夢」をはぐくむことなどを目的に、宇宙センターの見学や紙飛行機作り、宇宙食の調理など、宇宙にまつわる活動を月に1度のペースで行っている。現在の分団員数は44人。男女の比率はほぼ同じで、市川市だけでなく近隣市の子供たちも多く入団している。

この日は、子供たちや保護者、指導にあたるリーダーなど総勢70人ほどが参加。まずロケットや水ロケットが飛ぶ原理を近くの公民館で簡単に学んでから、親子で一緒に水ロケットを作った。

この日使用した水ロケットは、1・5ℓの炭酸飲料用ペットボトルで作った本体に、先端部分のコーンや尾翼などを取り付けた構造。部

品のゆがみや重心の微妙なずれが飛距離や軌道に影響するため、調整や確認は工程ごとに念入りに行われた。

完成後は全員で河川敷に移動。打ち上げは一度に3人ずつ行われた。ロケットに水500ミリリットルを入れてからランチャーにセットし、手動のポンプで5気圧に加圧。全員で「5、4、3…」とカウントダウンをしてスイッチを押すと、ロケットが水しぶきを上げながら勢いよく飛び出し、「オーッ」「すご～い」「面白～い」と大歓声が上がった。

会場の都合であまり飛ばないように圧力を抑えたが、飛距離は全員70メートル以上という安定ぶり。最長記録は122メートルに達した。市立国府台小4年の佐久間日向君は「かなり飛んだし、ロケットの前の部分も飛んで面白かった」、同柏井小5年の小林正洋君は「飛ぶ瞬間に水が冷たかった。すごく飛んだので作った甲斐があった」と笑顔を見せていた。



同分団は、分団員とリーダーを随時募集している。

分団員は小学3年生から中学生までが原則。会費は登録料(初回のみ)2千円と団費年2400円、分団費同1200円。月1回の活動では別途教材費が必要となる。

入団希望者は、氏名(ふりがな)・生年月日(西暦)・学校名・学年と、保護者(連絡者)の氏名(ふりがな)・続柄・住所(〒)・固定電話番号・ファクス番号・PCメールアドレス・携帯電話番号・携帯メールアドレスを書いて、同団分団長・長友正徳さんにeメール(NagatomoM@ybb.ne.jp)。

リーダーは、子供が好きで、科学工作や実験、自然観察などに興味がある人などが対象。希望者は自己紹介を添えて長友さんにeメール。

また、財政的に同分団を支援できる賛助員(個人または団体・企業)も募集中。一口5千円で、一口以上(一年分)。応募はeメールで長友さん。

← 前へ

次へ →